



平成24年8月14日

各 位

会 社 名 昭和ホールディングス株式会社
代表者名 代表執行役社長 重田 衛
(コード番号 5103 東証第二部)
問合せ先 執行役財務総務担当 庄司 友彦
(TEL. 04-7131-0181)

平成25年3月期 第1四半期の経営成績について解説

本日、平成25年3月期 第1四半期決算を発表いたしました。昨年度までと比べ大きく変化があり、事業として大きな発展がありましたので皆様の御理解を深めるべく、この内容につき解説をいたします。

記

1. 全体としての総括

当第1四半期におきましては昨年と比べ大きく経営成績が伸長いたしました。売上高1,733百万円（昨年同期比108.3%増）、営業利益153百万円（前年同期は営業損失98百万円）となっております。四半期純利益については41百万円（前年同期は2,232百万円）であり、昨年より大きく減少いたしました。これは昨年あたらしい事業の取得に伴う負ののれん発生益を一時的に計上されていた影響が大きく、事業としての成績は大幅な黒字転換となりました。

上記の経営成績の伸長の理由は以下の3点となります。

- ①新しい優良事業が貢献したこと
- ②従来事業もスポーツ事業が継続的に成長し、ゴム事業が黒字化したこと
- ③新規事業が加わることによって共通費の圧縮が進行していること

以下、上記についての現状ならびに見通しについて解説いたします。

①新しい優良事業が貢献したこと

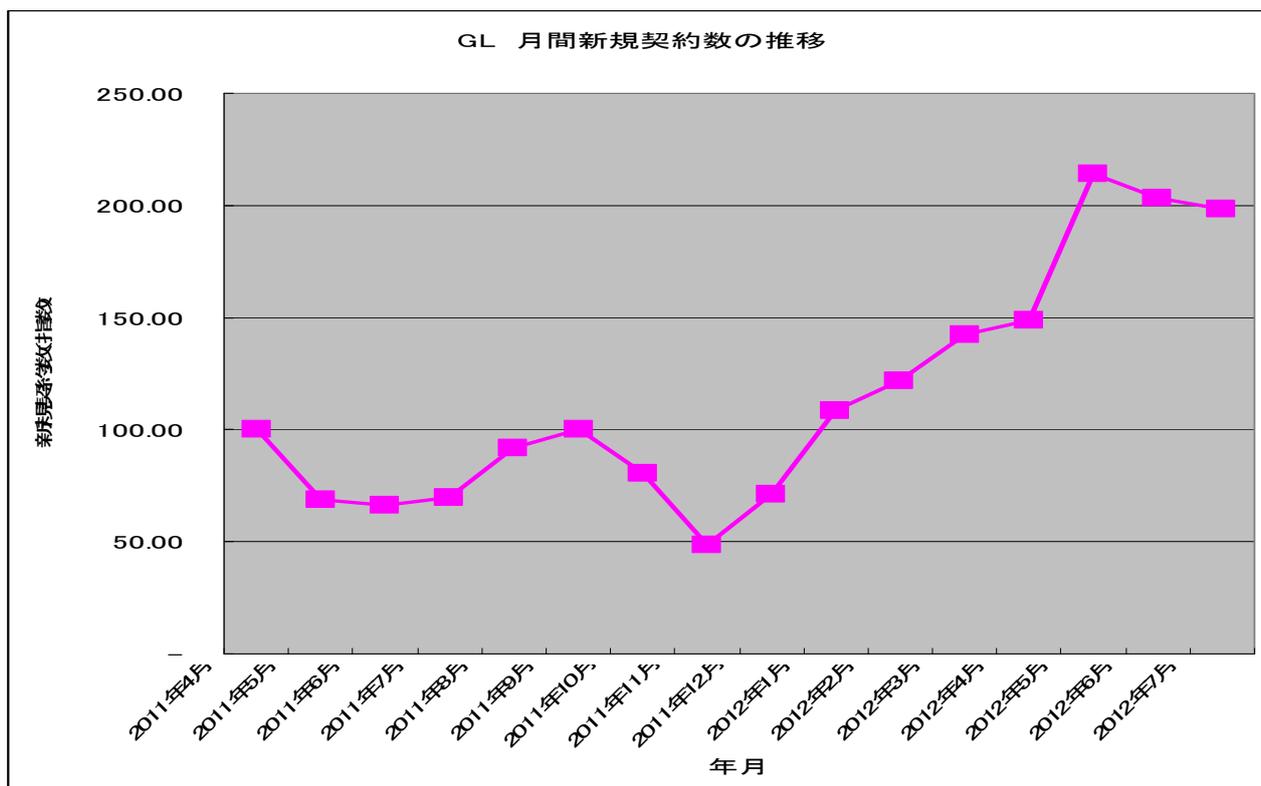
すでにお知らせいたしましたように昨年6月に株式会社ウェッジホールディングス、昨年7月に明日香食品グループが当社グループに参画いたしました。これにより当社はファイナンス事業、コンテンツ事業、食品事業と言う優良な主要3事業を獲得しております。これらの事業は昨年第1四半期にはまだ収益に貢献しておらず、またそれぞれの事業が好調と成長を継続して大きく当社の経営成績に貢献し、212百万円のセグメント利益を計上いたしました。

・ファイナンス事業の参画と成長

同事業はタイ証券取引所に上場しております当社連結子会社Group Lease PCL. が行っておりますオートバイファイナンス事業です。同事業は収益性、成長性が当社主要5事業の中で最も高く、今後期待される事業となっております。昨年においてはタイの洪水などもあり厳しい経営環境でした。しかし、その中で継続しておりました昨年からの経営改革の結果、再度、高成長の軌道に乗るとともに、当第1四半期においてもセグメント利

益171百万円と大幅に利益貢献いたしております。

昨年度からの改革により、営業地域を着実に拡大しつつあり、このことにより、当第1四半期においては過去最高の新規契約数を獲得するに至っております。



上記の新規契約数の増加は以下の3点により達成されました。

- ・昨年における経営改革により、従来の営業拠点の中から良質な拠点に集中したこと
- ・同事業はタイ国においてバンコクならびにその周辺から東部工業地帯地域にかけて営業基盤を有しておりますが、これはタイ国全土のごく一部にすぎず、新経営トップは自ら足を運んでこの営業基盤を拡大したこと
- ・社内の営業サポート体制が刷新され、契約台数の増加に耐えうるバックオフィスが構築されたこと

このことから成長と効率化が同時に達成されつつあり、今期におきましては今後予想を大きく上回る売上貢献、利益貢献を果たす可能性が高いと考えております。当社といたしましても、当社会長の此下益司が同事業を現地で陣頭指揮を執るなど今後の成長にむけ経営資源を集中して投入してまいります。また同事業は既にARFCビジョンを掲げ、タイのみならずASEAN全域に同事業を展開してまいります。

(ARFCビジョンにつきましては

「http://www.wedge-hd.com/cms_v2/assets/files/IR/NEWS/2012/i201203292.pdf」をご参照ください。)

・食品事業の参画と好成績

同事業は当社の持分法適用関連会社であります明日香食品グループが担う、和菓子等の嗜好食の製造販売事業です。同事業は昨年に続き当第1四半期において過去最高売上を達成しており、当社の純利益に対しても31百万円（持分法投資利益）と予想を大きく上回る貢献をいたしました。

上記の成績は以下の3点により達成されました。

- ・各種の新商品を開発発売し、好調に推移したこと

- ・営業体制の刷新などにより、従来の主力製品であるあんこ餅、わらびもち、柏餅などが好調であり、売上が大幅に増加したこと
- ・製造における固定費の活用が進展し、効率的な生産が行われたこと

同事業におきましては「アクセルプラン2012 食品事業」

(<http://www.asukafoods.co.jp/news/pdf/2012plan.pdf>) を発表し、今後の展開を進めてまいります。当社といたしましても当社最高経営責任者此下竜矢が社長を兼務するなどの支援を行っており、今期内において売上の伸長、固定費の活用等を通じて、当第1四半期と同じく予想を上回る貢献をするものと考えております。当社といたしましても今後とも適切な支援を行い、長期的成長を図ってまいります。

・コンテンツ事業の参画と順調な推移

同事業はジャスダックグロース市場に上場いたしております当社連結子会社株式会社ウェッジホールディングスの担う事業となっており、主にカードゲーム、書籍、音楽のプロデュースなどを行っております。同事業は当第1四半期においても順調に推移し、セグメント利益42百万円を計上いたしました。

同事業については「アクセルプラン2012 ウェッジホールディングス」

(http://www.wedge-hd.com/cms_v2/assets/files/IR/NEWS/2012/i20120627.pdf) の中で今後のビジョンを発表しております。今後はコアのコンピタンスを磨き上げるとともに、電子出版業界の拡大などの追い風を受けて業績を伸長させてまいります。

②従来事業もスポーツ事業が継続的に成長し、ゴム事業が大きく黒字化したこと

・スポーツ事業の成長と利益増加

同事業は当社100%子会社であります株式会社ショーワコーポレーション、ショーワスポーツ株式会社が担っております。同事業はソフトテニスボール市場において過半数のシェアを保持しておりますが、少子高齢化に伴って学校スポーツ人口の減少などのあおりを受け厳しい経営環境が続いております。その中で同事業は大きく利益が成長しつつあり、セグメント利益57百万円（前年同期比3.9%減）を計上しております。

これは以下の3つの理由が貢献しております。当社が行いました分社化の結果、

- ・製販の一体化を通じて協力がなされ、全体最適化が進んでいること
- ・経営をはじめとして人材が育成されたこと、また
- ・テニスウェア企画販売事業のルーセント、テニスクラブ運営事業のルーセントテニスクラブなどが新たに収益源として着実に拡大していること

当社といたしましては継続的に利益を増大させる体制が整いつつあると判断しており、今期においても順調な貢献を果たすと考えております。同事業は既に「アクセルプラン2012 スポーツ事業」(<http://www.showa-sports.co.jp/company/news/ss20120627.pdf>) を発表して、単なる製造販売業から脱却し、スポーツコミュニティーを活性化させる知的創造を主とする事業への転換を目指しております。また、同事業の長期的成長をめざし、株式会社ウェッジホールディングス傘下の海外テニスクラブなどとの一体運営を進めるなど適切に支援をしてまいります。

・ゴム事業の黒字化

同事業は当社100%子会社であります昭和ゴム株式会社並びに連結子会社でありますShowa Rubber (Malaysia) Sdn. Bhd. が担っております。同事業は30年以上にわたって不振が続いており、また日本のマクロ経済の動向に大きく依存している事業です。特に近年ではリーマンショック、歴史的円高、東日本大震災などの厳しいマクロ環境の中で赤字が増大しておりました。しかしながら、当第1四半期においては12四半

期ぶりにセグメント利益が黒字化し、17百万円の利益（昨年は45百万円の損失）となりました。

これは以下の内容により達成されております。

- ・固定費の圧縮と活用が進んだこと
- ・既存顧客からの売上が円高等の影響で減少する中、新規受注を獲得し、特にライニング部門並びに新規分野において売上が増加したこと
- ・適正在庫と製造の全体最適化が進み、在庫の圧縮が進んだこと

上記の状況の中、ゴム事業がセグメント利益化いたしました。しかしながら、マクロ経済環境は依然厳しい状況であり、安定して黒字が継続する状況とは言えない状況です。同事業についてはすでに「アクセルプラン2012 ゴム事業」 (<http://www.showa-rubber.co.jp/company/news/sr20120627.pdf>) を発表し、中期の経営計画を明らかにしておりますが、その実行を進めるとともに、注意深く外部環境を見極めつつ、ライニング部門の海外展開、新規分野である制震分野での受注獲得、全社のコアコンピタンスである技術を集約し、応用するなどの展開を行う中で、今期通年黒字化ならびに、長期的な成長を目指して参ります。

③新規事業が加わることによって間接費の圧縮が進行していること

すでにお知らせいたしましたように、昨年より当社グループの拡大により各種の固定費の共通化などにより間接費が圧縮され、また活用されております。

- ・株式会社ウェッジホールディングス社本社事務所に、当社本社事務所ならびに明日香食品東日本営業部を移転し、明日香食品ならびにショーワコーポレーション名古屋事務所を統合したこと
- ・経営、間接部門等において人事交流が進み、適材適所と固定費削減が同時に進んだこと
- ・共通化可能な各種経費の見直しが進んだこと

以上などにより、効率化が進展しております。今後においては共同での事業所開設やアジア進出などを実施することで、さらに効果の拡大を目指しております。またスポーツ部門に見られるようにグループが一体化することにより成長の原動力となると期待しております。

3. 今後の見通し

上記のように事業全体としての成長が続いておりますが、ゴム事業においては今後のマクロ経済環境に伴い不振に陥る可能性もあり、当社といたしましても、今後とも注意深く経営を指導し、また現実感を持って経営を主導してまいります。

今後も「アクセルプラン2012」に沿って企業価値向上に努めてまいりますので、何卒ご支援いただけますようお願い申し上げます。

以 上